

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：稼働率・生産能力指数(2006年5月)

発表日：2006年7月13日(木)

～稼働率は2ヵ月ぶりに低下したものの高水準～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

T E L : 03-5221-4525

(単位:%)

		稼働率指数						生産能力指数					
		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
04	1-3月	0.1	6.0	0.3	13.3	▲1.5	3.7	▲0.5	▲1.7	0.8	2.5	▲0.1	▲1.2
	4-6月	1.9	5.7	0.6	15.3	4.3	6.5	0.1	▲1.0	4.2	5.5	▲1.9	▲2.4
	7-9月	0.3	5.6	▲4.6	2.7	▲0.7	5.2	▲0.1	▲0.7	1.5	7.3	▲0.7	▲2.7
	10-12月	▲0.2	2.2	▲5.0	▲8.5	0.3	2.9	0.0	▲0.5	2.5	9.3	0.1	▲2.6
05	1-3月	0.9	1.5	1.2	▲8.5	2.8	5.1	▲0.2	▲0.2	0.3	8.7	1.0	▲1.5
	4-6月	1.1	2.3	0.7	▲8.0	0.4	3.2	0.1	▲0.2	1.9	6.3	▲0.2	0.2
	7-9月	▲1.4	0.3	3.7	0.6	▲4.8	▲2.2	0.2	0.1	1.0	5.8	0.4	1.3
	10-12月	2.3	2.6	4.5	9.8	2.9	0.9	0.4	0.5	3.5	6.8	1.2	2.5
06	1-3月	▲0.6	1.7	1.7	11.3	1.3	0.4	▲0.1	0.6	▲0.2	6.3	0.0	1.5
05	5月	▲1.9	2.6	▲1.0	▲9.5	▲7.0	3.5	0.1	0.0	0.5	5.8	▲0.2	1.4
	6月	0.5	2.1	2.6	▲5.9	1.9	1.6	0.1	0.0	0.5	6.3	▲0.1	0.8
	7月	▲1.4	▲1.3	0.8	▲3.0	▲3.4	▲3.6	0.0	0.1	0.0	5.5	0.0	0.8
	8月	0.4	1.5	2.3	0.7	▲1.7	▲0.9	0.0	0.0	0.8	6.0	0.0	0.8
	9月	0.2	0.8	▲0.1	4.4	2.5	▲1.6	0.3	0.3	0.2	6.0	1.8	2.3
	10月	0.9	2.1	2.1	7.1	▲1.7	▲3.6	0.2	0.5	3.1	7.0	0.0	2.3
	11月	1.3	2.3	1.0	10.0	4.5	0.3	0.0	0.5	0.1	7.0	0.0	2.3
	12月	0.9	3.3	2.9	12.3	1.6	6.7	▲0.1	0.4	▲0.2	6.5	0.2	2.7
	1月	▲0.8	1.5	0.5	12.8	▲3.8	▲2.0	▲0.1	0.5	▲0.1	6.7	▲0.1	1.5
	2月	▲0.9	2.5	▲1.6	10.5	2.6	0.2	0.0	0.5	0.0	6.4	0.0	1.5
	3月	▲0.3	1.3	0.1	10.5	2.9	2.4	0.1	0.7	▲0.2	5.8	0.0	1.5
	4月	2.4	1.0	▲1.8	7.1	4.7	1.4	0.1	0.8	1.6	6.3	0.0	1.5
	5月	▲2.5	1.5	4.2	14.5	▲10.5	0.4	0.1	0.8	0.3	6.1	0.1	1.9

(出所)経済産業省「鉱工業指数」

○ 稼働率は前月比▲2.5%と2ヵ月ぶりに低下

5月の稼働率指数は前月比▲2.5%と2ヵ月ぶりに低下した。業種別にみると、15業種中7業種で上昇し、8業種で低下した。

低下した主な業種は、輸送機械工業（前月比▲10.5%）や情報通信工業（前月比▲9.1%）、化学工業（前月比▲3.5%）である。稼働率低下の主因となった輸送機械工業は、これまで3ヶ月連続で稼働率が上昇していたことの反動によるものと考えられる。自動車輸出は引き続き好調なことから今月の大幅悪化は一時的と考えられ、輸送機械工業の稼働率は今後も高水準での推移が続く可能性が高い。情報通信工業は、5月はパソコン生産が減少したことなどを背景に稼働率が低下したが、生産の減少はモデルチェンジにともなう生産減少の可能性があり、先行きも低下傾向が続く可能性は低いだろう。化学工業については、前年比でも低下傾向となっており、やや軟調である。ただし、化学工業の出荷在庫バランスが改善してきていることを勘案すれば、今後低下傾向にも歯止めがかかってくる可能性が高い。

一方、上昇に寄与した業種は、電子部品・デバイス工業（前月比+4.2%）、鉄鋼業（前月比+1.9%）、一般機械工業（前月比+0.7%）となった。電子部品・デバイス工業は2ヵ月ぶりの上昇となったが、需要が堅調なことから前年比では+14.5%と堅調だ。一般機械工業も前年比では+6.1%と高めの伸びとなっており、内外の設備投資需要が好調なことから堅調さが持続している。

製造工業の生産予測指数は6月に前月比+2.7%、7月は同+1.1%となった。稼働率の先行きを展望すると、生産の増加基調は今後も続くと考えられることから、稼働率指数も高水準での推移が続くとみられる。また、高水準で推移する稼働率は、能力増強投資などの設備投資をサポートする材料にもなる。

○ 生産能力は緩やかなペースで増加

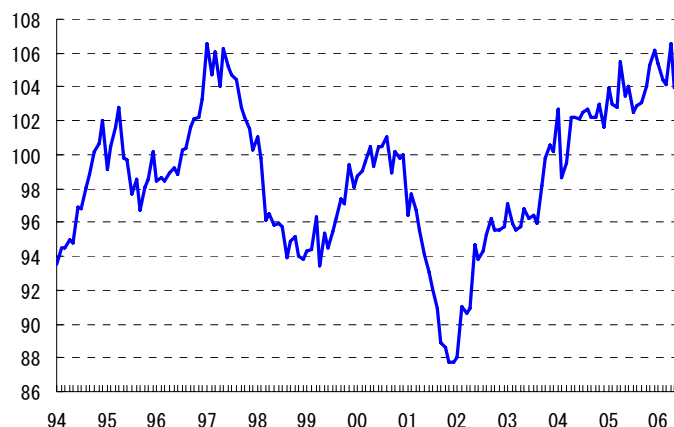
5月の生産能力指数は前月比+0.1%、前年比では+0.8%となった。窯業・土石製品工業が前月比▲1.1%と低下したものの、一般機械工業が前月比+0.3%、電子部品・デバイス工業も前月比+0.3%と上昇したことから、全体でも小幅上昇となった。電子部品・デバイス工業などのように能力増強投資を積極的に行っているセクターもあるが、製造業全体でみれば生産能力の向上は引き続き緩やかなペースである。ストック調整圧力が高まってきている状況ではなく、この観点から設備投資が大きく減速するリスクは小さいと考えられる。

○ 生産の増加テンポが大きく加速することは見込みがたいが、4－6月期はプラスの公算

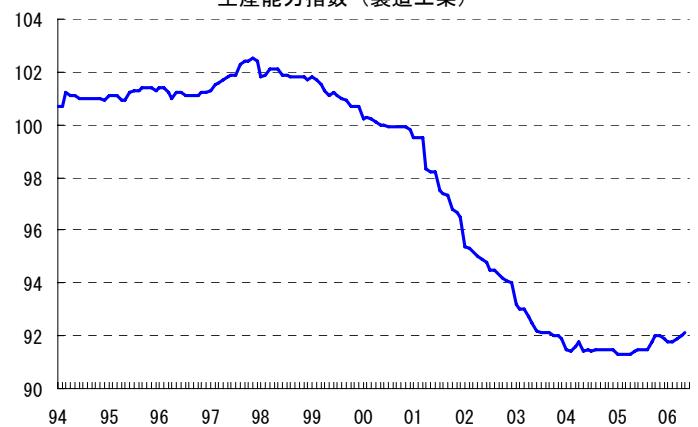
5月の鉱工業生産指数確報は、前月比▲1.3%と速報段階から0.3%ポイントの下方修正となった。5月確報で生産は比較的大きく下方修正されたが、4－6月期の生産指数が前期から増加する公算が大きいとの判断には変わらない。ただし、5月が下方修正されたことで、生産指数のプラス幅はそれほど大きなものとはならない可能性が高まった。6月の生産予測指数（前月比+2.7%）を基にすれば、4－6月期の生産は前期対比で+1.1%（速報段階では同+1.3%）となる。実現率がマイナス傾向であることを加味すれば、4－6月期の生産の増加テンポが1－3月期（前期比+0.6%）から大きく加速することまでは見込みがなくなった。

なお、出荷指数は同▲1.4%（速報同▲1.0%）と0.4%ポイント下方修正され、在庫指数は同▲1.5%（速報同▲1.4%）となった。この結果、在庫率は同▲2.0%（速報同▲2.3%）となった。

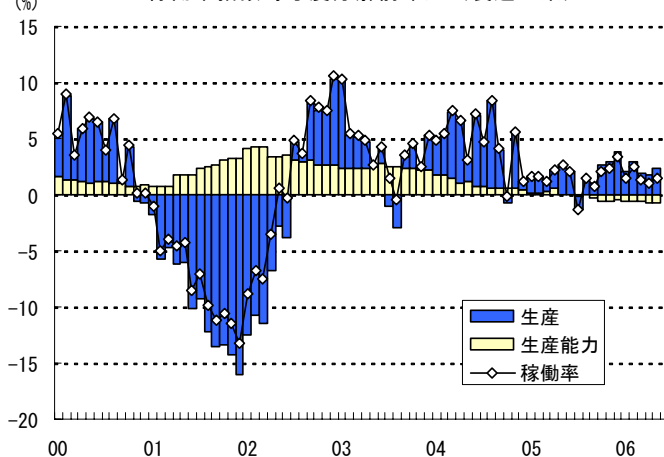
設備稼働率（季調値、指数）



生産能力指数（製造工業）



稼働率指数寄与度分解前年比（製造工業）



稼働率指数寄与度分解前年比（電子部品・デバイス）

